

巻 頭 言

論文記載に当たってのポイント

仙台青葉学院短期大学

田 林 暁 一

論文は他者に読まれ、吟味・評価され、その結果として価値が定まる。この事は論文の質を判断する指標の一つとしてインパクトファクターが多用されていることから判断できると思う。その様な観点から、論文は読みやすく、容易に理解が可能で、論理性を有し、かつ論文の構成が整備された記述とすることが肝要である。

簡潔明快な文章を記載するに当たっての総論的な考え方、および論文の構成単位毎の記載法について記述する。

I 総論

I - 1 論文の構成は原則、タイトル、序論（緒言）、方法、結果、考察、結論から成り、上述の順序となっている。ただし、論文の種類によっては要旨、謝辞を含める場合もある。

I - 2 見た目や文法上の体裁の取れた美しい文章はそれだけで説得力を増すとされ、その内容は下記に列挙する。

- ① 一文は1行～3行程度とする。5行以上しない。
- ② 句点の入れ方は前後の単語のつながりを意識する。1行に1～2箇所程度とする。
- ③ 「～ある・である」調で書く。
- ④ 主語と述語を一致させる。
- ⑤ 指名代名詞を使用する時は、何を指しているのかを十分吟味する。
- ⑥ 漢字・熟語を積極的に利用し、何度も同じ言葉を使用しない。
- ⑦ 段落の最初は1マス下げる。
- ⑧ 生物医学・生命科学に関する研究論文の執筆に当たってはガイドラインに準拠した記載が要求されることがある。研究方法別の主なガイドラインとリンク先を下記に記す。
PRISMA：システムティックレビュー、およびメタ分析、Prisma Checklist
CONSORT：ランダム化比較試験、CONSORT extensions
STROBE：観察研究（コホート研究、症例対照研究、横断研究）、Translations of STROBE statement
CARE：症例報告、<https://www.care-statement.org/>

I - 3 正確に、かつストレスがない様に伝える。その方策は下記に記述する。

- ① 前文と後文の論理的関係を明確にする（ゆえに、そこで等の接続詞の上手な使用）。
- ② 段落は内容のまとまりを意識して区切る（主張は明白に）。3行～15行程度が目安。
- ③ 内容の面白さや重要さを伝える（ポジティブ的な記載、実績の強調、また受動態の使用頻度を下げ、直接的な動詞を活用する）。

I - 4 同僚による批評は独善的な文章や言い回しによる理解困難な文面、また冗長度を下げるのに有用である。

I - 5 複数回のブラッシュアップは論文の読解性と価値を上昇させる。

II 論文の構成単位毎の記載法

II - 1 タイトル

- ① 何に関する論文かを正確に言及する。
- ② 客観的に記載する。
- ③ 語数は可及的に少なくする。
- ④ 体言止めにする。但し1単語のみとしない。

II - 2 序論（緒言）

- ① 研究背景、意義、成果の重要性、目的を記す。
- ② 研究背景として先行研究のレビューが必要で、社会的背景、わかっていること、わかっていないことを明らかにする。
- ③ 目的は序論の最後に1センテンスで言及する。
- ④ はじめて現れる用語は略さずにつづり、その後にカッコ内に略語を入れる。

II - 3 方法

- ① 簡潔でなおかつ記載された情報に基づいて、他の研究者がその研究を再現できる情報を記述する。
- ② 特定の器具や化学物質の使用が重要な時は、製造社名、モデル名、所在地の都市名および国名を記述し、数に関係する時は正確に示し、手順と評価基準は明確に記載する。
- ③ 用いた生物材料については全て引用文献を付ける。
- ④ 表で示せるリストは本文中に記載しない（材料や、対象者の構成等）。
- ⑤ 結果はこのセッションには含めない。
- ⑥ 同じ情報は反復しない。

II - 4 結果

- ① 研究デザインに沿って記載する。
- ② 研究の結果、明瞭になったことを記述する。
- ③ ガイドラインを使用する場合はそれに沿って記載する。
- ④ プロトコルの記載中に含まれている各検査や測定等の結果を記述する。
- ⑤ 研究の主目的に関係のないデータは手短かに提示する。
- ⑥ データを本文中に記載するか、図・表で提示するかは十分に検討する。
- ⑦ 対象数は方法で示した数と確実に一致するようにする。
- ⑧ 結果は客観的に記載する。
- ⑨ 図・表・写真は明瞭でかつ分かり易くする。
- ⑩ 図・表・写真と本文の内容は重複させない。
- ⑪ 表には表題、図には legends（図の説明）を付ける。

II - 5 考察

- ① 新発見、論述、限界の順序で簡潔に記載する。
- ② 新発見が複数ある場合は個々に論述する。
- ③ 論述は新知見の背景、先行研究との差異、新発見の価値について記述する。
- ④ 限界は研究に関連した内容とする。

II - 6 結論

- ① 研究の目的に対する回答を記載する。
- ② 新発見の価値を記載する。
- ③ 未解決な課題について記述する。

読みやすく、理解しやすい論文の記載上の注意点について記述した。基本スタイルは自分でテーマ・問題を見つけ、関連する文献を調査し、解決のための種々のアプローチ（統計学的分析、アンケート調査等）を適切に選択して筋道良く論述することである。今後、論文記載に当たって参考になれば幸いである。